

# 七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便り No.5 令和4年(2022年)9月1日

## 8月1日より、新しい用務員が着任いたしました。

今年度の4月に用務員として、着任されていた方が、ご家庭の事情により7月末日でご退職されました。短い間ではありましたが、とても気持ちよく働いていただきました。

心からの御礼とともに、これからのご活躍を願いながら、お送りいたしました。

用務員のご退職に伴い、欠員が出ましたが、8月1日から新しい用務員の方をお迎えできることになりました。夏季休業中でしたので、お知らせできませんでしたが、8月29日の始業式に日に、全校児童に知らせると共に挨拶をしていただきました。この校長室便りでお知らせいたします。ご紹介が遅れましたこと、ご了承ください。

## 8月1日 用務 1名着任

もう1名の用務主事との2名体制となります。50周年の記念の年でもある本校の環境整備等に尽力いただきますので、ご承知おきください。何卒、よろしくお願いいたします。

## 校内の畑に珍しい植物が育っています。



今は、校長室前に置いてあります。

この植物の実の写真をご覧ください。

皆様の中で、ご覧になったことのある方は、いらっしゃるでしょうか。

この実は、本校の北側にあるへちま棚の近くに育っています。とても大きな葉っぱをつけていますので、見つけるのは、簡単です。

実がついているかどうかは、ちょっと見るだけでは分かりませんが、用務主事が収穫して、見せてくれました。

この植物の実は、**トランペットズッキーニ**と言います。イタリアで作られている野菜で、日本にもあるカボチャの仲間です。イタリア語では「ズッキーニ・トロンペッタ」と言います。神奈川県の鎌倉の方で栽培されていて、鎌倉野菜の仲間になっています。

実は、このトランペットズッキーニは、本校の北門を入ったところに植えてある「アンネの

バラ」の育成でお世話になっている方から、苗を分けていただきました。植えてみたところ、上の写真のような立派な実が成りました。ゼリーやポタージュにしたり、ソテーにしたりして食べると、とても美味しい食材であることが分かりました。

私が教員になった頃は、食育の一環で、学級の子供たちと一緒に空豆や落花生を植えて育てたり、収穫祭をしたりしました。収穫祭では、「いただきます」の言葉を学びながら、食べていました。その他にも、ヨモギ団子や桑の実のジャムを作り、子供たちに自然の豊かさや恵みを学ばせた時もありました。今は、食物アレルギー等の安全や衛生面に留意しなければならないことが多くあり、子供たちが栽培したものを、収穫して食べることは少なくなりました。

本市では、5年生が田植えで植えた稲からできるお米を刈り取り、収穫したお米を給食で食べることにしています。自分たちの命や生活が、自分たちの身の回りにある様々な命によって生かされていることを少しでも感じながら、日々の給食や食事を、命を「いただきます」の思いで、味わいながら食べてほしいと願っています。

8月31日から、2学期の給食が始まりました。安全で安心な給食を提供するとともに、給食時における指導も行っています。現在のコロナ禍では、黙食が基本ですが、少しでも楽しく美味しい給食の時間になるよう、努めていきたいと思っております。

## 運動会に向けた取組として

これまで、全校児童が一堂に集まって行う朝会や集会は、感染症対策の対応として、オンラインや放送を使って行っています。先日の始業式も、オンラインで行い、各教室でテレビ画面に映った先生方を見ながら、それぞれのお話を聞く形式で行いました。

これからにおいても、基本的には、オンラインや放送を使うこととなりますが、来月の10月に実施予定の運動会では、校庭での取組が基本となります。そこで、校庭で行う運動会に向けた取組の1つとして、全校児童を校庭に整列させた形での全校朝会を行う計画を立て、校庭での取組に慣れさせるようにしたいと思います。

早速、来週の9月5日の月曜日の全校朝会は、校庭に並ぶ形式で行います。

(雨天時は、これまでと同じように、オンラインで行います。)

学校教育の中では、整列させる場面は、様々な場所や時間で行われています。教室から特別教室への移動の時、体育での授業の初めや準備体操の時、校外学習等の移動や見学の時など、たくさんの場面で整列をしています。全校が一堂に集まる場面では、コロナ禍では、なかなか行うことができませんでした。

そのため、全体での整列に慣れていないことや校庭で並ぶ時の児童同士の間隔を空けて並ぶこと等、全校児童で並ぶ時の並び方を知り、できるようになることが必要となります。特に、低学年の子供たちは、経験が少ないところでもあり、練習が必要です。

運動会当日においては、児童鑑賞日と保護者鑑賞日では、児童の動きが違います。保護者鑑賞日においては、該当学年だけが校庭に出る形になり、児童鑑賞日のように全校児童が揃うことはありません。全校児童が揃う形が少ない分、全校朝会を活用して並ぶことに慣れさせ、児童鑑賞日には、時間がかからずに並ぶことができるようにし、感染症対策や熱中症対策について、万全を期してまいります。保護者の皆様には、ご理解をいただき、開校50周年記念運動会を大成功で終わらせていくことができるよう、ご協力の程、よろしくお願いたします。運動会の詳細については、これから適宜、お手紙を配布いたしますので、もうしばらくお待ちください。

### 【校長のつぶやき】

8月31日の朝、出勤時にスマホの画面に速報が流れました。その内容は、旧ソ連の元大統領、ミハエル・ゴルバチョフ氏の訃報の速報でした。自宅を出てすぐのところで、その訃報を見た途端、その場に立ち止まってしまいました。

実は、ゴルバチョフ大統領とは一度お会いしたことがあり、握手をしていただいた思い出があります。ご家族で日本をご訪問されていた時に、ある歓迎のレセプション的な集いがあり、その場において私が指揮をしていた中学生の合唱団が歓迎演奏をすることになりました。

当時の中学生の皆も、とても喜ぶと共に緊張もし、合唱の練習にも熱が入ったことを、今もよく覚えています。突然の大役です。更には、歓迎会を運営する関係部署から、ロシア語の曲をお願いしたいとの連絡が入りました。そして、送られてきた曲を確認するために、送られてきた楽譜と録音テープを聞きました。

当時の合唱団では、全くと言っていいほど、ロシア語に精通しておりませんでした。また、中国語や韓国語、インド等のアジア系の言葉での演奏はしたことはありましたが、北欧系やロシア語等に通じる言葉での演奏はしたことがなく、本当に短い期間での準備に右往左往しました。

それでも、人の輪を巡り巡って、ロシア語のできる方を見つけることができ、その方の家にまでお邪魔をして歌詞の意味や読み方、歌の内容等を深夜に渡ってお聞きしました。実は、教えていただいた方を見つけるには、私の妻も懸命に協力してくれたこともあり、家族の協力がある中での大役への挑戦だったことも、忘れられない強い思い出になっています。

そして、できる限りの準備と練習をして、万全とはいえませんでした。歓迎の日を迎えました。中学生の皆も、懸命に努力をして、ロシア語の歌詞を覚え、楽曲にも歌い慣れるように挑戦をして当日を迎えました。いよいよ、ゴルバチョフ氏のご家族を迎える中、歓迎の演奏を行いました。その曲を聴いてくださったゴルバチョフ氏は、喜びの表情と満面の笑みを浮かべながら、突然踊りだし、歌い出されました。

私たちの歌った曲は、ゴルバチョフ氏が小さい頃から慣れ親しんだ歌であり、その歌を日本で、そして、未来を生きる中学生が歌ってくれたことに、最大のお礼と真心を込めて、私たちに友好の意を表してくださいました。そして、私に駆け寄り、握手もしてくださいました。

私の心には、あの時のお姿が今も焼き付いています。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

